

# 野崎家塩業歴史館所蔵「備前国絵図」について

倉 地 克 直

岡山県児島で製塩業に携わってきた野崎家に、巨大な「備前国絵図」が伝わっている。昨年（二〇一三年）それを調査する機会を与えられ、他にあまり類例のない興味深いものだと印象を強く持った。今後他の絵図との比較研究が深められなければならないが、現時点で判明している事柄を紹介し、最初に調査にあたった者としての責めを果たしておきたいと思う。

## 1

野崎家塩業歴史館所蔵「備前国絵図」（以下「野崎本備前国図」もしくは単に「野崎本」と呼ぶ）は、二重の木箱に入れられている。外箱の上蓋には「備前国絵図／児島郡地図」と書き込みがあり、明治期以降に新調されたものと思われる。内箱は、上蓋に「備前国絵図」と書き込みがあり、その中にこの絵図が納められている（写真1）。この内箱上蓋には、他に貼紙や書込のあった痕跡があるが、剥がされていたり抹消されていたりしている。箱の裏面にも墨書の跡があるが、削られていて判読不能である。内箱自体は江戸時代のもので、絵図は当初

からこの箱に納められていたと思われる。

絵図は四枚一組で、備前国を四分割して描いている。様式・内容から見て、藩が幕府に提出したいわゆる官撰国絵図系統のものであることは間違いない。各図の端裏には題箋の貼紙があり、例えば「延宝九西歳改 備前国絵図四枚之内 一」のように記し、他は番号の部分がそれぞれ「二」「三」「四」となる。後に詳しく触れるように、村に注記された年号のうち最も新しものは「延宝七年」で、他にも延宝期の内容として不都合な記載は見当たらない。<sup>(1)</sup> 延宝九年（一六八一）に改められたものというのは、その通りと考えてよいだろう。

四枚は次頁の図のように分割されている（図1）。このうち「二」の題箋の横にだけ貼紙があり、「延宝九年（此年天和ト改元アリ）ヨリ明治三十一年迄年数二百十八年」と記されている（写真2）。この明治三十一年（一八九八）というのが、この絵図が野崎家に所蔵されることになった年ではないかと思われる。

各図の題箋の下部には、その図に描かれた郡名と色分けを記した貼紙がある（写真2）。その内容を表1に整理した。同じ内容の貼紙が各図の畚紙にも貼り付けられている。

絵図は重ね合わせて見るため、各部分図は図の周りの四方に約一〇cmほどの余白が取られている。それを踏まえてそれぞれの用紙と図の部分の法量を示すと、表2のようになる。各図はそれぞれ正方形でほぼ同じ大きさである。つまり、備前国絵図を機械的に四等分して作られたものと言える。四枚を合わせて図の部分のみを測ってみると、タテ五三四cm、ヨコ五一八cmになる。

この絵図には多数の朱筆の書き込みがある。そこには「古御絵図」という言葉が頻出する。時期からすると「古御絵図」はいわゆる正保の国絵図と思われる。正保の「備前国絵図」は池田家文庫（岡山大学附属図書館所蔵）に控図が残されている（以下、「池田本正保図」もしくは単に「正保図」と呼ぶ）。例えば、野崎本備前国図の「蕃山村」には「古御絵図ニハ寺口村」という注記があるが、確かに池田本正保図

図1 四分割の仕様

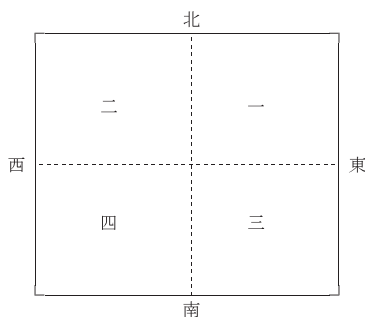


写真1 中箱（上蓋）

では「寺口村」となっている。こうした記載は他でも対応が確認できる。野崎本備前国図が、池田本正保図を元に、それと対照しながら作成されたことは間違いない。

池田本正保図の法量は、タテ二八七・四cm、ヨコ三二七・二cmである。これと比べると野崎本備前国図はほぼ二倍の大きさである。正保図は全国一律一里六寸で作られているのに対して、野崎本備前国図は概ね一里一尺余であり、ほぼ二倍の拡大図と見なしてよい。

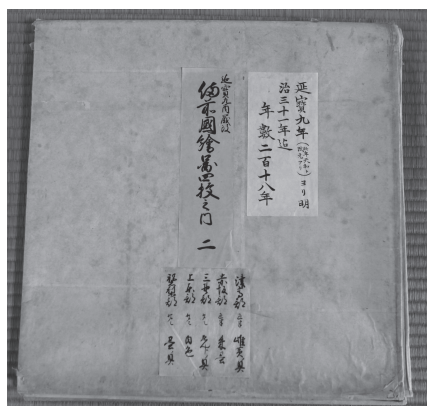


写真2 端裏の貼紙

表1 分割による郡の記載と色分け

一	二	三	四
和気郡 雌黄ノ具 磐梨郡 墨ノ具 赤坂郡 朱墨 上東郡 少シ 肉色	磐梨郡 少シ 墨ノ具 赤坂郡 過半 朱墨 上東郡 少シ 肉色  三野郡 過半 氈んじノ具 津高郡 過半 雌黄ノ具	和気郡 少シ 雌黄ノ具  上東郡 半分 肉色  邑久郡 氈んじノ具 児嶋郡 少シ 朱墨	上東郡 半分 肉色 上道郡 墨ノ具 三野郡 氈んじノ具  津高郡 少シ 雌黄ノ具 児嶋郡 朱墨

なお、赤坂郡の「惣分ノ内笹原村」および「小原ノ内丸山村」には、それぞれ「此村古御絵図四枚一絵図二書落、此度書入」、「此村一枚御絵図四枚一絵図二書落、此度書入」という注記がある。「古御絵図」および「一枚御絵図」は正保の国絵図と考えてよいだろうが、そのほか「四枚一絵図」も参照したように読める。「四枚一絵図」というのは四分割図の意味だろう。このような注記はこの二例以外に見当たらないのだが、野崎本備前国図と同じような四分割図があったようだ。その四分割図が野崎本備前国図の元図である可能性もなくはないが、残念ながら、そのような四分割図の残存例は寡聞にして知らない。この点での追求は不可能なので、今は野崎本備前国図の元図は池田本正保

池田本正保図は、畠紙には「備前国九郡／高合式拾八万式百石／松平新太郎」と記すのみで、仕様について記すことはない。「備前国九郡絵図」という名称は、記念図的な性格の濃い池田家文庫の寛永一五年国絵図と同じであり、それに続けて知行高と仕様の一つ書きを記し、

一黒丸 一里山  
一藍色 海川池  
一墨之書付 他国之湊江道法附国境理リ  
一草之汁 山  
一朱之書付 一里山之間鄉村難字片仮名付并海上嶋々入江理リ

表2 用紙などの法量

番号	用紙	図
一	281.4×271.2	272.4×260.4
二	283.6×270.6	272.0×259.6
三	284.0×270.4	272.8×259.4
四	283.2×270.5	272.2×259.7

註）法量はタテ×ヨコ、単位はcm。

表3-1 郡付の記載

郡名	高(石)	村数	内 本村	枝村
三野郡	36,858.26 36,858.26	104	63 50	41
津高郡	38,271.10 38,271.10	161	94 92	67
上道郡	23,215.66 37,964.04	68	50 45	18
赤坂郡	37,964.04 21,288.74	160	93 93	67
磐梨郡	21,288.74 20,978.65	76	66 64	10
和気郡	20,978.65 45,583.95	136	84 83	52
上東郡	26,610.35 26,610.35	78	46 46	32
邑久郡	45,583.95 23,215.66	139	71 68	68
児嶋郡	29,429.28 29,429.28	107	82 79	25

註）各郡の数字の内、上段は野崎家「備前国絵図」、下段は池田家文庫「正保備前国絵図」。下段の本村数は「正保郷帳」による。

表3-2 郡高の誤記

池田・正保	石高(石)	野崎
上道郡	37,964.04 ⇒	赤坂郡
赤坂郡	21,288.74 ⇒	磐梨郡
磐梨郡	20,978.65 ⇒	和気郡
和気郡	45,583.95 ⇒	邑久郡
邑久郡	23,215.66 ⇒	上道郡

註）表3-1より作成。

図であったとしておく。  
そのことで齟齬が生じる  
ことはないだろう。  
「三」の畠紙部分には次  
のような絵図仕様に關す  
る書き込みがある。  
備前国九郡絵図  
知行高合式拾八万式百石  
一郡 色分  
一墨筋 郡境  
一金泥 古城山  
一朱筋 道

藩主名は記さない。こうした様式は、この図が当初から藩内で使用すること目的としたものであることを示しているだろう。

## 2

野崎本備前国図の特徴を、池田本正保図と比較しながら、以下概観してみよう。

(1) 郡付 内部を白塗りした長方形の枠囲いのなかに、郡名・郡高・村数(本村・枝村の内訳も)を記す。<sup>(4)</sup> 正保図は枠囲いをせず、地にそのまま郡名・郡高のみを記し、村数は記さない。両者の数値を表3-1に示した。正保の村数は「郷帳」「備前国九郡帳」のものである。枝村については「郷帳」に記されているものもある。枝村については「郷帳」に記されているものもある。国絵図上には記されていないものが多く、その基準が不明なので省略した。郡高の数値の違いは単純な不注意ミスで、転記する際に郡名と郡高がズレたためである。その錯誤の関係を表3-2に示した。

(2) 郡境・郡の色分け 郡境を太い墨線で示すのは両図とも同じ。ただし、正保図が川の中にも細い墨線で郡境を引くのに対して、野崎本備前国図は川中には境線を引かない。郡の色分けは、正保図が村形を色分けして示すのに対して、野崎本備前国図は村形は色分けせず地を色分けしている。色分けは表1に示したとおりである。

(3) 村形 本村は小判形の中を白塗りし、村名と村高を記す。高は、



写真3 岡山城と城下町

正保図が「石余」と記すのに、野崎本備前国図では「石斗升」まで記して。これは正保「郷帳」の書き方と同じである。枝村は正保図が小き目の小判形に「三石ノ内中村」というように記すのに対して、野崎本備前国図では同じ内容を長方形の角形に記し、一見して本村と区別できるようにしている。村高はいわゆる知行高で、正保「郷帳」とほとんど違いはなく、枝村や新田村に高を記さないのも同じである。<sup>(5)</sup> 野崎本備前国図には枝村が異常に多いのが大きな特徴である。そのため枝村には「古御絵図出来以前分有之候、書落申と存候」といった朱書きの注記が多い。これは、村の実際をより正確に図上に反映しよう



としたものと理解できる。

(4) 岡山城・東照宮 正保図は該当箇所「岡山城」と記すだけであるのに対して、野崎本は城下町の区域を雌黄色に塗り、本丸周辺を絵画的に描く(写真3)。本丸の横に「岡山」、西国海道沿いの大手筋に「町」と記す。本丸の描写は正確でない。岡山城天守閣は、上二層が四面望楼型であるのに対して下二層が不正五角形である点に特徴があるが、ここでの描写は四面体を積み重ねた平板なものとなっている。城下町の東南に東照宮を絵画的に描くのは、両図に共通している。

(5) 番所・燈籠堂 両図とも岡山城・東照宮以外に目立つ絵画表現はない。わずかに番所と燈籠堂として小さな建物が描かれている。正保図は福島番所と牛窓の燈籠を描くが、野崎本はこれらに加えて、下津井西崎に「燈籠堂」が描かれる。<sup>(6)</sup>

(6) 古城 両図の古城の表記を表4に示した。古城の場所および呼称とも両図で違いはない。ただし、表示方法は大きく異なる。正保図が細い墨線で山形を描き名称を記すのに対して、野

表4 古城の表記

場所	野崎	池田・正保
和気郡 三石村	三石古城山	三石古城
天瀬村	天神山古城	天神山古城
赤坂郡 周匝村	周匝古城山	周匝古城
大田村	大田白石古城山	大田古城
津高郡 虎倉村	虎倉古城山	虎倉古城
金川村	金川古城山	金川古城
宇垣村	戸倉古城山	戸倉古城
上東郡 沼新田村	沼古城	沼ノ古城
邑久郡 乙子村	乙子古城	乙子古城
上道郡 海面村	古城	古城
段原村	龍ノ口山古城	龍口古城
三野郡 説経谷村	大安寺古城	大安寺古城
児嶋郡 宇藤木村	常山古城	常山古城
塩生村	本太古城	本太古城
下津井村	下津井古城	下津井古城

註) 場所は最寄りの村名を示した。

崎本では険峻な山を描いた上から金泥を塗っている。この古城を金泥で塗る様式は、寛永一五年国絵図と同じである。

(7) 道路・一里塚 正保図は主要な道路を太い朱線で示すだけなのにに対して、野崎本は同じように主要道は太い朱線で示すとともに、地域内の道路についてもやや細い朱線で丹念に描く。主要道に黒点二つで一里塚を示すのは両図に共通する。各一里塚に最寄りの村までの里程

表6-1 河川書き込み(1)

	野崎本「備前国絵図」	池田家文庫「正保備前国絵図」
吉井川 河原屋村	川広常水五拾八間深三尺	
周匝村	周匝舟渡り、常水広五拾間深三尺四尺	周匝舟渡、常水広五十間深三尺四尺
福田村	福田舟渡り、常水広六拾間深四尺五尺	
奥塩田村	路舟渡り、広四十間深六尺七尺常水	
稲崎村	川広常水五十間深三尺	
苦木村	川常水広三十間深七尺八尺	
頭村	か口瀬、常水広廿間深貳尺	
佐伯市場村	佐伯舟渡、常水広四十間深六尺	佐伯舟渡、常水広四十五間深四尺五尺
竜毛鼻村	常水川広六十間深五尺余	
天瀬村	井閑、常水川広七十間深三尺余	
益原村	常水川広六十間深二尺三尺	
和気村	舟渡、川広常水六十間深四尺五尺	和気舟渡、常水広六十間深四尺五尺
奥吉原村	常水広四十間深二尺三尺	
千棘村	常水広六十間深二尺三尺	
弓削村	常水広五十間深貳尺	
坂根村	井閑	
吉井村	井閑、吉井船渡、常水広八拾間深四尺五尺、長船ノ渡リトモ云	吉井舟渡り、常水広八十間深四尺五尺、長船渡り共云
一日市村	一日ヨリ式町下広四十間歩渡り有	
福岡村	福岡渡、深八尺九尺常水広七拾間	福岡舟渡、常水広七十間深八尺九尺
百枝月村	井閑、船渡り、川広常水七拾間深四尺五尺	
鴨越村	井閑	
西大寺村	西大寺舟渡、満汐広八拾間深八尺九尺、干汐二五尺六	西大寺舟渡り、満潮二広八十間深八尺九尺、干潮二五尺六尺
金岡村	金岡ヨリ小串へ老里、干潮二舟不入	金岡方小串迄一里、干潮二舟不入

表6-2 河川書き込み(2)

	野崎本「備前国絵図」	池田家文庫「正保備前国絵図」
旭川 川尻村	川広常水一町深八尺九尺	川広三十五間深八尺九尺
黒瀬村	川広常水卅五間深老間半	
水谷村	川広常水四十八間深七尺八尺	川広常水三十五間深七尺八尺
品田村	川広常水老町干水ニ歩渡リ	
建部村	建部船渡、常水広老町卅間深六尺七尺、此川向美作国福渡村	建部船渡、常水広七十間深六尺七尺、福渡共云
中田村	川広常水五拾間干水ニ歩渡リ	
久志井村	川は、常水五十五間深一間	
金川村	金川船渡、常水広一町深一間半	金川船渡、常水広四十間深二尺三尺
小山村	川広常水一町拾五間干水ニ歩渡	
国ヶ原村	川広常水五拾五間深一間二尺	
福吉村	川広常水五十六七間干水ニ歩渡	
大久保村	川広常水卅式間深一間四尺	
牟佐村	船渡、川広常水一町卅八間深四尺五尺、往還方牟佐村迄一町卅二間	牟佐船渡リ、常水六十五間深四尺五尺
三野村	井間、長四百七拾間	
竹田村	船渡	
小性町村	船渡	

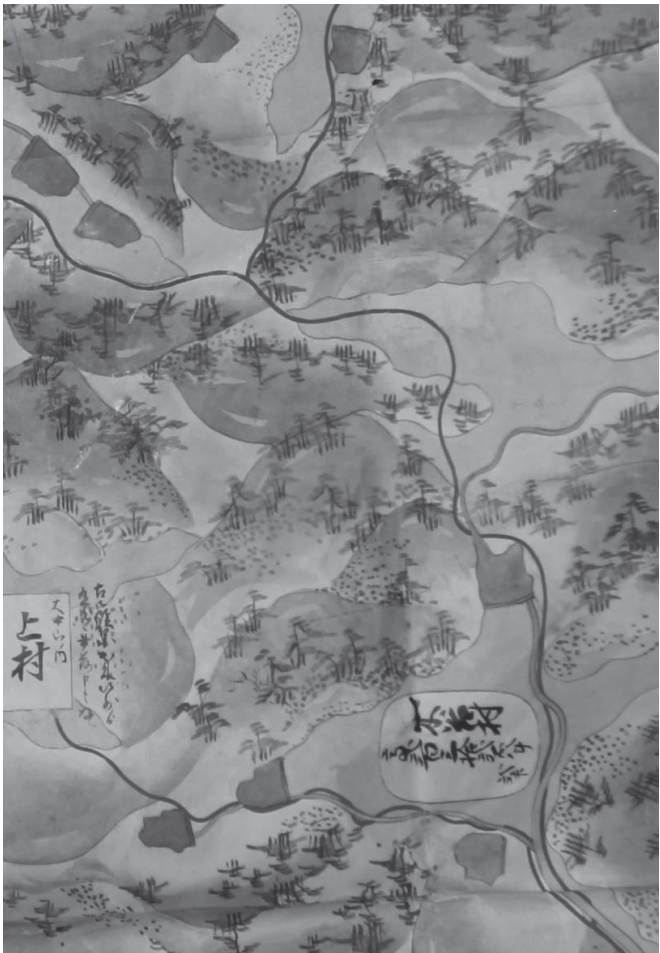


写真4 溜池・用水の表記

を記すのも同じ。野崎本の地域内道路には、一里塚を描くものと、それが見えない箇所もある。

(8) 国境小書き 野崎本は細かな道路まで描くため、必然的に国境の小書きが多くなる。両図の小書きを表5に対比した(註の後に掲載)。一見して野崎本の小書きの多さが目立つ。両図で共通して書かれる箇所については、両図で内容・数字に大きな違いはない。野崎本は細かな道路まで描くため、小書きにも「牛馬通」が「自由」か「不自由」

かの記載が増えることになる。道路表示の多さと併せて、野崎本が地域内の交通情報を重視していることが印象付けられる。なお「瀬たわ」は尾根上の鞍部のこと。野崎本は国境越えの地名も細かく拾っている。

(9) 河川・溜池・水路 主要道が大川(吉井川・旭川)と交わる地点には渡河情報が記される。野崎本は細い地域内道路まで描くため必然的に渡河地点が多くなり、情報も多くなる。両図の記載を表6にまとめた。(1)は吉井川、(2)は旭川である。共通して書かれる箇所に

については、吉井川ではほぼ同じだが、旭川ではいくらか異なり、野崎本の方が広さの数字が大きい。野崎本には「歩渡り」という記載が多い。これも地域内の住民生活に密着した情報だ。川中の「井関」の記載は正保図にはないが、野崎本にはある。井関の有無は河川交通にも関わるが、用水にも関わるものだ。野崎本には多数の溜池が描かれるのも大きな特徴である（写真4）。それにとまって、小さな川や用水も描かれる。こうした用水への注目は、池田光政が万治四年（一六六二）に収集した郡図を特徴づけるものであった。同じように野崎本も農政への強い関心を反映しているだろう。

(10) 海上航路 両図とも航路は太い朱線で示され、線が引かれる場所・筋も同じである。航路の随所に里程を記し、畠紙に岡山・牛窓・下津井から播磨国・備中国・備後国・讃岐国などへの里程を記すのも同じである。各湊や入江には、例えば下津井であれば「此湊西北風舟掛吉」のように船懸かりの情報が記されるが、両図で書かれる場所および内容に違いは全くない。ただし、小島・そへ（岩礁）・ハへ（暗礁）・洲などに関する情報は野崎本が格段に詳しい。全てを紹介するのは煩瑣なので特徴的な要素として、大多府島周辺（図2）、牛窓・前島周辺（図3）犬島周辺（図4）、洪川村・引網村沖（しゃくなげの瀬、図5）に限って示してみた（註の後に掲載）。詞書きや地名のうち、文の後ろに■を付けたものは、正保図にも記載のあるものである。逆に正保図にあって野崎本にないものはない。海上情報で最も注目すべきは、白丸で「みを木」を描くことだ。「みを木」を東からあげてみると、大多府島東沖1、牛窓・蕪崎沖2、牛窓端ノ小嶋西1、犬島北西沖1、福島沖旭川河口3、

厚村沖1、胸上村沖1、しゃくなげの瀬南4、以上一四か所である。寡聞にして、そうした湊木の存在および湊木を描いた国絵図を知らない。瀬戸内海は島々が入り組んでいて潮流も早いため、特に大型船が遭難することが多かった。「はへ」や「みを木」を示すことは、海上交通の安全を確保するために是非必要な情報であった。

(11) 村の注記 先にも述べたように、野崎本には村に多数の朱書きによる注記が付されている。それを表7にまとめた（註の後に掲載）。多くは「古御絵図」（正保図）との異同を注したもので、開発や分村、村名変更の年度が分かるものはそれを注記している。「帳」（「名寄帳」か）や「下ケ札」（「年貢免状」）が分けられていることを記したり、洪水による分村の事情を記すなど、興味深い記事もある。いずれにしても、藩の郡方において収集された情報に基づくと思われる、また郡方の支配に役立つために記されたものと考えてよいだろう。事実を確かめるために、その地の「老民」に尋ねているのも興味深い点である。

### 3

以上の分析から、野崎本備前国図の性格を推理してみよう。

1 特別に大型で極彩色の立派な絵図で、民間で作られたというよりは、藩の中核近くで作られた可能性が高い。

2 「延宝九西歳改」をこの絵図自体の作成年と考えると特に不都合はない。

3 正保国絵図を元に作られたことは間違いないが、幕府の指示した

仕様とは異なり、藩内使用を意識した仕様が目立つ。なお、延宝九年時点で正保国絵図をこれほど正確に把握しえたのは、藩関係者以外考えにくい。

4 陸・海・河川とも交通情報が詳しいこと、村々のより詳しい状況、とりわけ在方支配に有用な情報を図示しようとしている点からは、藩の郡方や船手の関与が想定される。

5 郡方・船手の双方が関与するとすれば、評定の場合が考えられる。とすれば、藩主や家老・小仕置など藩中枢部が見るものであったろうか。

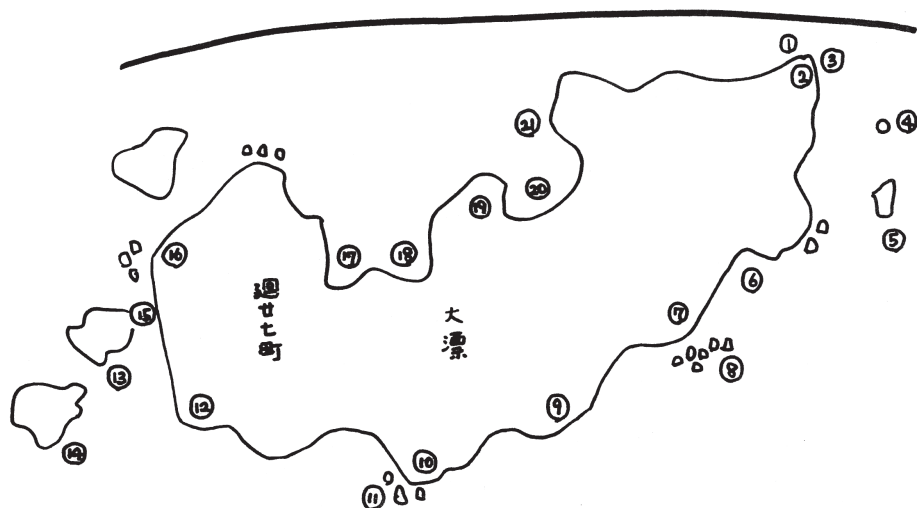
6 延宝九年の出来事として注意したいのは、この年幕府巡見使が来ていることである。一行は九月六日に備中から備前に入り、備前西部を巡見して九日岡山泊、一二日児島の日比から船に乗り、直島を経由して一三日に牛窓に上陸、再び領内を巡見して一六日に播磨国に出ている。この前の寛文七年（一六六七）の巡見使から、国絵図を準備する必要はないとされていたが、もしかすると念のため藩では国絵図を用意したかもしれない。なお、正徳五年（一七一五）の幕府監使来藩に際して、岡山藩では元禄国絵図の写を準備しているが、これは約六〇％の縮図である。<sup>9)</sup>野崎本備前国図の内容からすれば、巡見使に示したというよりは、彼らの案内や説明について打合せをする際に、藩の重臣たちが検討した図かもしれない。

現在言いうることは以上である。

## 註

- (1) 例えば、貞享元年（一六八四）に完成した幸島新田、貞享四年（一六八七）完成の百間川、元禄五年（一六九二）完成の沖新田などは描かれていない。
  - (2) 以下、池田家文庫の史料については『池田家文庫総目録』岡山大学附属図書館、一九七〇年の分類番号を記す。この絵図は「二八」。なお、正保国絵図については、川村博忠『江戸幕府撰国絵図の研究』古今書院、一九八四年、同『国絵図』吉川弘文館、一九九〇年、などによられた。
  - (3) 『備前国九郡絵図』「二二」。この絵図の記念図的な性格については、倉地克直「ライデン大学所蔵の備前国絵図・備中国絵図をめぐって」『岡山大学文学部紀要』第53号、二〇一〇年、によられた。
  - (4) 上道郡と上東郡は寛文四年（一六六四）に合併して「上道郡」となった。正保図では合併以前であるため、別々の郡として扱われていた。野崎本備前国図は、合併後ではあるが、正保図を元にしたためか、元のように別々の郡として扱っている。
  - (5) 正保図の村名・村高については、倉地克直「近世前期の備前国絵図と村名」『岡山大学文学部紀要』第41号、二〇〇四年、によられた。
  - (6) 『備陽国誌』によれば西之鼻の燈籠堂は延宝年間に設置されたという（岡山県の地名『平凡社』、一九八八年）。
  - (7) この万治四年の郡図については、倉地克直『池田光政』ミネルヴァ書房、二〇一二年、によられた。
  - (8) 以上、『池田家履歴略記』上巻、日本文教出版、一九六三年。
  - (9) 『備前国絵図』「二六」。なお、明和二年（一七六五）の監使来藩に際して作られた「備前国絵図」にも、約六〇％の縮図である。
- 〔付記〕野崎家塩業歴史館所蔵「備前国絵図」の閲覧にあたっては、公益財団法人竜王会館理事長野崎泰彦氏・事務長辻則之氏・学芸員宮崎健司氏のお世話になった。また、調査にあたっては青木充子氏・辻秀敏氏・萩文俊氏・日吉由加里氏の協力を得た。記して感謝の意を表します。





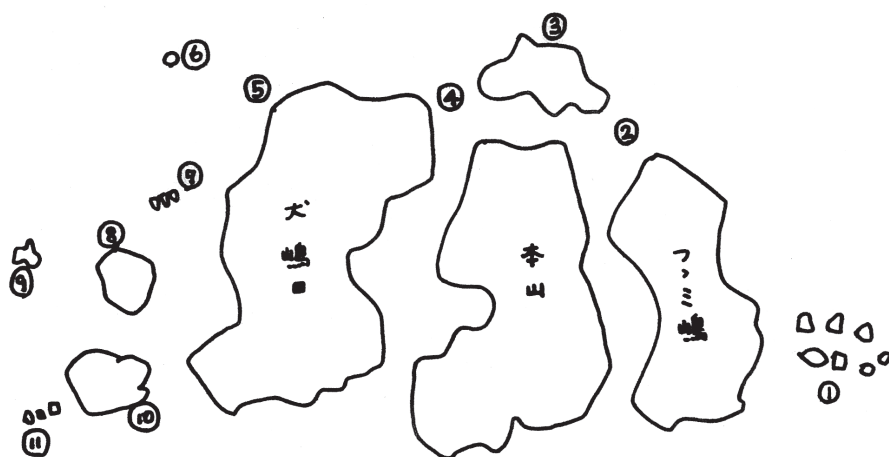
- ①そへ十五間 ②かもりノはな ③是ヨリ播磨室江六里■ ④みを木 ⑤甲ノそへへ、  
此そへへしつミ不見、大千ニ少頭ニツ見ル、老間程、此根十間斗、但、山へつゝく ⑥ふ  
かのかふ ⑦通りノはな ⑧そへ ⑨はまうそごへ ⑩きぎヶこ ⑪牛岩 ⑫口ノ中崎  
⑬大赤岩五間ニ拾間程 ⑭小赤岩三間ニ五間程 ⑮あらミノ浜 ⑯ぶたノはな ⑰とぶ道  
⑱湊口程三町斗 ⑲中ノそへ ⑳とまりノさき ㉑東西風ニ舟掛リ吉、潮時不構、其外悪  
シ■

図2 大多府島周辺

- ①水底高藻沼すぐひノ湊南東風ニ吉  
②此はへ干潮ニあらはる地方卅間、  
西風ニ舟掛リ吉潮時不構■  
③せと口三町荒潮■  
④せと口式町四拾間■  
⑤此はへ干潮ニあらはる地ヨリ拾間■  
⑥此ミなと東北風舟掛リ吉、潮時不構、  
此間三町五拾間瀬下深式間を拾四間迄■  
⑦南東風ニ舟掛吉、潮時不構、地かた浅■  
⑧牛窓ヨリ下津井迄拾里、岡山迄七里  
⑨遠浅■  
⑩ミを木 ⑪古ひろそへへ  
⑫老ツ石 ⑬小そへへ凡三間  
⑭大そへへ凡五間 ⑮かしらそへへ

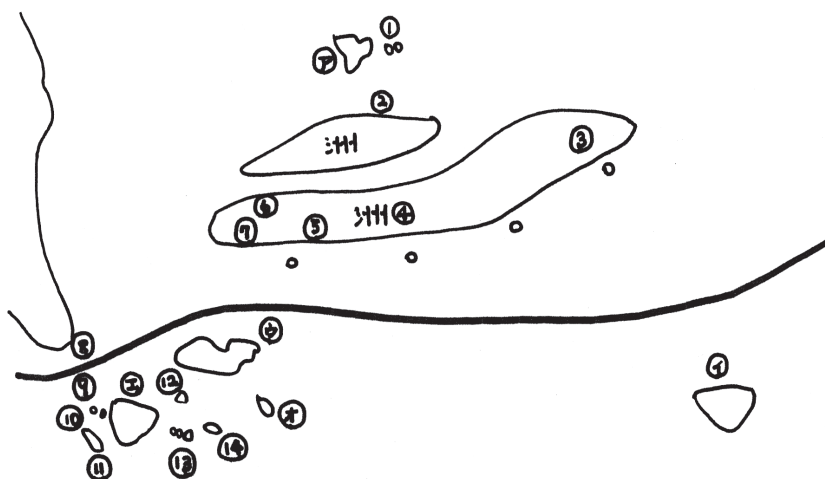


図3 牛窓・前島周辺



- ①白石 ②つゝミが瀬戸、左右浅シ、南東西風ニ舟掛リ吉、潮時不構、舟数不掛■ ③中上ヶいかた ④釜カ口南東風舟掛吉、潮時不構、数艘ハ不掛■ ⑤左右岩つゝき岸深シ■ ⑥みを木 ⑦いはしそハへ■ ⑧ほうはり嶋 ⑨此はへ潮下式尺、但、干汐ニ■ ⑩竹ノ子嶋 ⑪是ハつゝきそハへ瀬

図4 犬島周辺



- ⑦蓼葉嶋、⑧備前ノ内大槌 ⑨備前ノ内釜嶋 ⑩備前ノ内松嶋 ⑪備前ノ内もろき嶋  
①そハへ ②此あい小舟ハ通ル ③三町余 ④しやくなきノ瀬、干潮汐下一尺二尺 ⑤六七町余 ⑥長卅町余 ⑦五町余 ⑧瀬戸口五町 ⑨此瀬戸一里荒潮 ⑩鳴瀬 ⑪ていてい長拾間 ⑫あかはたか中ひニ長廿三四間 ⑬こしきそハへ長六間 ⑭くろはだか中干ニ長廿五六間 ○4か所=みを木

図5 浜川村・引網村沖

表5 国境小書き

野崎本「備前国絵図」	池田家文庫「正保備前国絵図」
鳥打湖 是ハ播磨国赤穂郡かりや村へ出ル道、此国境方かりや村迄一里拾八町、備前国和気郡福浦村迄拾三町、人馬通自由、片上村迄ハ三里式拾七町	
弓弦葉湖 是ハ播磨国赤穂郡まき村江出小道、此国境方まき村迄廿町、備前和気郡寺山村へ九町、人馬通自由	
赤ノ湖 是播磨国赤穂郡之内をりまた村江出ル小道、此国境よりをりかた村江拾町、備前和気郡之内寺山村江拾町	
市ヶ湖 是播磨国赤穂郡之内大津村江出ル道、此国境方大津村迄式拾町、備前和気郡寺山村迄五町	
法坂 是ハ播州赤穂江出ル道、此国境ハ法坂与申所、備前岡山方此境迄九里拾町、境目方播磨国赤穂郡之内大津村迄一里一町卅間	国境保坂、是ハ播州赤穂へ出ル道、備前岡山ヨリ此境迄九里拾八町
柿ヶ湖 此国境方西字根新田村迄拾六町、碁石村迄拾七町	
槇ヶ湖 是ハ播磨国赤穂郡西字根新田村江出ル小道、此国境方西字根新田迄拾六町、備前和気郡碁石村迄ハ六町、人馬道自由、	
是ハ西国海道筋、此国境ハ船坂峠与申所也、岡山城本方此境迄九里式拾壹町式拾間、此峠方播磨国赤穂郡梨ヶ原村迄拾四町三拾間、備中境大鳥居より此峠迄拾壹里式拾町三拾間	是ハ西国海道筋、此国境ハ舟坂峠と申所也、岡山城本ヨリ此境目迄九里式拾壹町式拾間、此峠ヨリ播磨国赤穂郡梨子ヶ原村迄拾四町三拾間、備中境大鳥居ヨリ此峠迄拾壹里式拾町三拾間
是ハ播磨国赤穂郡行塔村江出ル小道、此国境ハゆのとう湖与申所也、行塔村迄式拾町、備前和気郡門出村江八町	
是ハ播磨国赤穂郡行塔江出ル小道、此国境ハ堂ヶ湖与申所也、行塔村迄拾町、人馬通自由、備前和気郡角谷村迄九町	
是ハ播磨国赤穂郡之内皆坂江出ル道、此国境ハ山臥越之湖与申所、備前岡山方此境迄拾式里壹町、境目方皆坂村迄廿三町四拾間、但、此道播磨国方美作国英田郡之内横川村江通指道、皆坂之境方横川之口迄備前之内壹里拾式町、山臥越之湖方播州立野迄七里	国境山伏越ノたハ、是ハ播磨国赤穂郡ノ内皆坂へ出ル道、備前岡山ヨリ此境迄拾式里壹町
大平越、此国境より小皆坂村迄ハ四町、和気郡下畑村迄ハ三拾壹町	
是ハ播磨国赤穂郡小皆坂村江出小道、此国境ハ板場与申所、小皆坂村迄ハ式拾七町、人馬通自由、備前和気郡東畑村迄ハ拾六町	
是ハ播磨国佐用郡之内新宿村江出ル小道、此国境ハ石堂ヶ湖与申所、新宿村迄ハ拾三町人馬通自由、備前和気郡東畑村迄ハ拾六町	
是ハ播磨国佐用郡之内大日山村江出小道、此国境方大日山村迄ハ拾八町、人馬通自由、備前国和気郡東畑村迄ハ四町	
是ハ播磨国佐用郡之内大日山村江出小道、此国境方大日山村迄ハ拾八町、人馬通自由、備前国和気郡滝谷村迄ハ拾三町	
此山三ヶ国之境	
赤石ヶ岡	
是ハ美作国英田郡之内白水村江出ル道、此国境ハ八塔寺越男滝与申所、備前岡山より此境迄拾式里拾三町、境目方白水村迄式拾三町	国境八塔寺越、是ハ美作国英田郡白泉村へ出ル道、備前岡山ヨリ此境迄拾式里拾三町

是ハ美作国英田郡之内柿ヶ原村江出ル小道、此国境ハ杉ヶ 湖与申所、柿ヶ原村迄ハ貳拾町、備前国和氣郡八塔寺村迄 ハ三拾壹町、人馬通自由	
此国境ハ岩口与申所也、美作国英田郡口路村迄拾八町、人 馬通無、備前和氣郡八塔寺村迄ハ三拾貳町	
此国境ハ七曲与申所也、横川村之内成田村壹町、和氣郡西 畑村迄ハ八町	
打礼	
此国境ハ打礼与申所也、美作国英田郡横川村之内亀石村迄 ハ貳町、備前国和氣郡城ヶ畠村迄拾六町、人馬通不自由	
是ハ美作国英田郡之内横川村江出ル道、此国境ハ梨湖与申 所、備前岡山方此境迄拾里廿六町、境目ハ横川村迄拾町、 但、此道美作国ヲ播磨国赤穂郡ノ内皆坂村江通指道、横川 之境ハ皆坂之境迄備前内壱里拾貳町	是ハ美作国英田郡ノ内横川村へ出ル道、備前岡山ヨリ此境 迄拾里貳拾六町
是ハ美作国英田郡之内高しやり村江出ル小道、此国境ハ高 しやり村迄拾町、室原迄ハ七町、人馬通不自由	
是ハ美作国英田郡之内足谷村江出ル小道、此国境ハ足谷村 迄ハ拾五町、備前和氣郡室原村迄ハ四町、人馬通不自由	
是ハ美作国英田郡之内中井曾村江出ル小道、此国境ハふち を湖与申所、中井曾迄ハ三拾町	
是ハ美作国英田郡之内上山村江出ル道、備前岡山方此国境 迄拾里三町四拾間、境目ハ上山村江九町三拾間、人馬通不 自由	是ハ美作国英田郡ノ内上山村へ出ル道、備前岡山ヨリ此境 迄拾里三町四拾間
此国境美作国英田郡之内鳥坂村ハ境目、備前和氣郡之内大 岩村迄五町	
此国境ハ英田郡之内おあし村迄二町、備前国和氣郡之内北 山方村迄拾六町	
是ハ美作国英田郡上山村之内西谷村江出ル道、此国境ハ才 ノ湖与申所、備前国和氣郡之内和氣村方此境迄四里拾七町 卅間、境目ハ西谷村江四町	是ハ美作国英田郡上山村ノ内西谷へ出ル道、備前国和氣郡 ノ内和氣村ヨリ此境迄四里拾七町三拾間
是ハ美作国英田郡之内奥村江出ル道、此国境ハ矢坂与申 所、備前国和氣郡之内和氣村より此境迄四里拾四町四拾 間、境目より奥村迄拾貳町	是ハ美作国英田郡奥村へ出ル道、備前国和氣郡ノ内和氣村 ヨリ此境迄四里拾四町四拾間
此国境ハ二ノすりと申所、美作国英田郡之内森村迄拾貳 町、人馬之通不自由	
是ハ美作国勝南郡之内飯岡村江出ル道、此国境ハ船渡川中 也	是ハ美作国勝南郡飯岡村へ出ル道、備前岡山ヨリ此境迄九 里八町
此川向美作国勝南郡之内木知ヶ原村	
是ハ美作国久米南条郡之内藤原村江出ル道、備前岡山より 此国境迄九里貳拾九町、境目ハ藤原村迄九町、但、川岸備 前国周匝村迄牛馬不通	是ハ美作国久米南条郡ノ内藤原村へ出ル道、備前岡山ヨリ 此境迄九里貳拾九町、但、備前ノ内周匝村迄牛馬不通
是ハ美作国本山寺村江出ル道、此国境より本山寺村迄ハ七 町四拾間、備前国赤坂郡是里村之内山口村迄拾六町難所大 坂有	
是ハ美作国久米南条郡又間村之内片山村江出ル道、此国境 ハ傍示ヶ湖与申所、片山村迄ハ三町三拾間、備前国赤坂郡 之内中勢実村迄貳町難所	



是ハ美作国久米南条郡之内峠村江出ル道、此国境ハ曾根山峠与申所、備前国赤坂郡之内峠与美作国峠村与家並、備前岡山より此境迄金川村通り之道法六里三拾壹町、牟佐村通り之道法七里貳拾貳町三拾間、但、此境より美作国津山迄ハ六里	国境曾根内峠、是ハ美作国久米南條郡之内峠村江出ル道、備前岡山ヨリ此境迄六里三拾壹町
此国境より美作国久米南条郡之内京尾村迄七町拾貳間、備前国赤坂郡大田上村迄拾四町貳貳間難所大坂有	
此国境ハ美作国久米南条郡之内舞羅久寺村迄拾四町貳拾間、備前国赤坂郡之内大田中村迄ハ拾町三拾六間難所大坂有	
此国境ハ美作国久米南条郡之内福渡村迄四町七間、備前国赤坂郡大田下村迄七町四拾間歩道難所	
是ハ美作国久米南条郡之内福渡江出ル道、此国境ハ船渡川中也、備前岡山方此境迄六里六町拾間、福渡ハ川端ニ家有、但、此道美作国ハ備中国賀陽郡之内山之上村江通横道、福渡方山之上村境迄備前之内式里貳拾七町三拾間	福渡共云、是ハ美作国久米南條郡ノ内福渡江出ル道、備前岡山ヨリ此境迄六里六町拾間
此川向美作国久米北条郡之内新井村、川端ニ家有	
是ハ美作国久米北条郡和田村之内三中蔵村江出ル道、此国境ハ川中也、備前国岡山より此境迄陸道拾里九町、三中蔵村ハ川端也	是ハ美作国久米北條郡和田村ノ内三手蔵村へ出ル道、備前岡山ヨリ此境迄陸拾里九町
此川向美作国久米北条郡之内草原村、川端家有	
是ハ美作国久米北条郡西井和村之内浜尻村江出ル道、此国境ハ川中也、備前岡山方此境迄陸道拾三里卅町拾間	是ハ美作国久米北條郡西井和村ノ内浜尻村へ出ル道、備前岡山ヨリ此境迄陸拾三里三拾町拾間
是ハ美作国真嶋郡之内吉村江出ル道、備前国津高郡江与味村之内重定村と美作国吉村と家並、備前岡山より此境迄陸道拾三里貳拾五町	是ハ美作国真嶋郡之内吉村江出ル道、備前岡山ヨリ此境迄陸拾三里貳拾五町
此国境美作国真嶋郡之内俵村之家有	
是ハ美作国真嶋郡之内上山村江出ル道、此国境ハ摺鉢西之瀬と申所、備前岡山より此境迄拾貳里三拾間、境目方上山村江拾壹町	国境摺鉢西ノたハ、是ハ美作国真嶋郡之内上山村江出ル道、備前岡山ヨリ此境迄拾貳里三拾間
美作国ノ此山三ヶ国之境ノ備中国	
是ハ備中国上房郡上有漢村之内川関村江通、此国境ハ石仏山飯山峠与申所、備前岡山方此境迄拾貳里五町五拾間、境より川関村迄拾五町三拾間	国境石仏山飯山峠、是ハ備中国上房郡上有漢村ノ内川関村江出ル道、備前岡山ヨリ此境迄拾貳里五町五拾間
是ハ備中上房郡之内金倉村江出ル道、金倉村ハ国境ニ家有	
此国境ニ備中上房郡之内矢野村与知守村与家並	
是ハ備中国上房郡下田土村之内神原村江出ル道、国境ハ藤才峠与申所、備前岡山より此境迄八里三拾三町五拾間、境目より神原迄七町五拾間	国境藤才峠、是ハ備中国上房郡下田土村ノ内上原村江出ル道、備前岡山ヨリ此境迄八里三拾三町五拾間
是ハ備中国賀陽郡之内上野村江出ル小道、此国境ハ臼井ヶ瀬与申所、備前国津高郡之内加茂市場村方此境迄貳拾町、境方上野村迄四町	国境臼井瀬、是ハ備中国賀陽郡ノ内上野村へ出ル小道、備前津高郡ノ内加茂市場村ヨリ此境迄貳拾町
是ハ備中国賀陽郡之内上野村、此国境ニ家有、平岡村並	
是ハ備中国賀陽郡之内皆建部村江出ル道、此国境家有	
是ハ備中国賀陽郡真星村之内遠畑村江出ル道、此国境ハ千升か瀬与申所、備前岡山より此境迄六里卅貳町三拾間、境目方遠畑迄拾町貳拾間	国境千升たハ、是ハ備中国賀陽郡真星村ノ内掛畑村へ出ル道、備前岡山ヨリ此境迄六里三拾貳町三拾間
是ハ備中国賀陽郡之内古川村江出ル道、此国境より古川村迄貳町	

是ハ備中国賀陽郡之内山之上村江出ル道、此国境ハ勝尾湖与申所、備前岡山方此境迄四里三町、境目方山之上村迄三町、但、此道備中国より美作国久米南条郡之内福渡江通横道、山之上村境迄	国境勝尾たハ、是ハ備中国賀陽郡ノ内山ノ上村へ出ル道、備前岡山ヨリ此境迄四里三町
是ハ備中国加陽郡之内高松村江之小道	
西国海道、是ハ西国海道筋、此国境大鳥居申所、岡山城本より此境迄壹里三拾五町拾間、境目方備中国加陽郡之内板倉村迄九町拾間、播磨国境船坂峠方此境迄拾壹里貳拾町三拾間	是ハ西国海道筋、此国境大鳥居と申所、岡山城本ヨリ此境迄一里三拾五町拾間、境目ヨリ備中国賀陽郡之内板倉村迄九町拾間、播磨国舟坂峠ヨリ此境迄拾壹里二拾町卅間
是ハ備中国加陽郡之内庭瀬江出ル道、備前岡山より此境迄壹里拾五町廿間、境目より加陽郡之内平野村迄七町貳拾間、庭瀬迄貳拾町五拾間	是ハ備中国賀陽郡ノ内庭瀬へ出ル道、備前岡山ヨリ此境迄一里拾五町貳拾間、境目ヨリ賀陽郡ノ内平野村迄七町貳拾間、庭瀬迄貳拾町五拾間
久米村より天城村境迄備中之地ノ内三里九町	
是ハ備中国窪屋郡之内有木村江通、備前国児嶋郡之内下津井村より此国境迄四里八町、但、此道備前岡山より下津井江通道、備中之地ヲ通り岡山より下津井迄八里三拾二町貳拾間	是ハ備中国窪屋郡ノ内有木村江出ル道、備前児嶋郡ノ内下津井村ヨリ此境迄四里八町
備中境	

表7 注記のある村

郡名	村名	注 記
和気郡	三石ノ内福石村	此村万治三年ニ出来
	三石ノ内碁石村	明暦元年ニ出来
	三石ノ内土師神根村	古御絵図出来以前方有之候
	三石ノ内関川村	古御絵図出来以前方有之候、書落申と存候
	日生ノ内中日生村	古御絵図出来已前方有来候、書落申と存候
	蕃山村	古御絵図ニハ寺口村
	蕃山ノ内新田村	此村寛永八年ニ出来
	友延ノ内山田原村	古御絵図出来以前方有之候、書落申と存候
	友延ノ内徳藤村	古御絵図出来以前方有之候、書落申と存候
	井田村	此村地方ハ友延難田両村ノ内ニて候へ共、近年両村ヲはなし、下ヶ札外へ出シ申候
	東片上ノ内大瀬村	古御絵図出来以前方有之候、書落申と存候
	伊部ノ内小畑村	古御絵図出来以前方有之候、書落申と存候
	南谷ノ内こたい橋村	古御絵図出来以前方有之候、書落申と存候
	南谷ノ内中ヶ市村	古御絵図出来以前方有之候、書落申と存候
	南谷ノ内窪ヶ市村	古御絵図出来以前方有之候、書落申と存候
	門出ノ内大ほうさ村	古御絵図出来以前方有之候、書落申と存候
	門出ノ内小原村	古御絵図出来以前方有之候、書落申と存候
	門出ノ内宗清ヶ市村	古御絵図出来以前方有之候、書落申と存候
	山津田ノ内竹藤村	古御絵図出来以前方有之候、書落申と存候
	大中山ノ内上村	古御絵図出来以前方有之候、書落申と存候
	大中山ノ内下村	古御絵図出来以前方有之候、書落申と存候
	大藤ノ内上大藤村	古御絵図出来以前方有之候、書落申と存候
	稲坪村	古御絵図ニハ牛松村
	稲坪ノ内下村	古御絵図出来以前方有之候、書落申と存候

吉永村	古御絵図ニハ吉永中村
倉吉村	古御絵図ニハ万願寺村
吉田ノ内働村	古御絵図ニハ関村
南方ノ内柏原村	古御絵図出来以前有之候、書落申と存候
日室ノ内山田村	古御絵図出来以前有之候、書落申と存候
藤野ノ内坂本村	古御絵図出来以前有之候、書落申と存候
尺所ノ内庄司村	古御絵図出来以前有之候、書落申と存候
曾根ノ内南曾根村	出来ノ年数不知
野吉村	古御絵図ニハ安養寺村
坂根ノ内宇治村	古御絵図出来以前有之候、書落申と存候
木倉ノ内助安村	古御絵図出来以前有之候、書落申と存候
日笠上村ノ内遊屋村	古御絵図出来以前有之候、書落申と存候
和意谷村	古御絵図ニハ脇谷村
牛中村	古御絵図ニハ牛内村
上田土ノ内杉沢村	古御絵図ニハ杉沢上村
苦木村ノ内杖付村	古御絵図出来以前有之候、書落申と存候
苦木ノ内五軒屋村	古御絵図出来以前有之候、書落申と存候
南山方ノ内延原村	古御絵図出来以前有之候、書落申と存候
北山方ノ内西野村	古御絵図出来以前有之候、書落申と存候
北山方ノ内正坪村	古御絵図出来以前有之候、書落申と存候
北山方ノ内大多羅村	古御絵図出来以前有之候、書落申と存候
北山方ノ内成仏村	古御絵図出来以前有之候、書落申と存候
北山方ノ内常瀬村	古御絵図出来以前有之候、書落申と存候
北山方ノ内柳沢村	古御絵図出来以前有之候、書落申と存候
奥塩田ノ内金田村	古御絵図出来以前有之候、書落申と存候
奥塩田ノ内ひうえ村	古御絵図出来以前有之候、書落申と存候
磐梨郡 稲蒔ノ内上田村	此村古御絵図に無之、稲蒔ノ小村ニテ高分リ無之候、御国替以前二本村洪水二逢、其以後過半民家ヲ両村ニ引、村名を高田上田村と唱申候由、老民覚居申候、上田村高田村共二同断
東小坂村	古御絵図ニハ東谷村、何年前二名替候哉不知
西小坂村	古御絵図ニハ西谷村、何年前二名替候哉不知
父井ノ内新田村	明暦三年頃出来
父井ノ内大成村	此村御国替以前有之候
沢原ノ内山吹村	此村出来ノ年数不知
梅村・保木村	古御絵図ニハ梅保木村ト御座候、先代ハ一帳ニメリ候へ共、大田原村中ニはさミ村はなれ居申二付、名寄等も仕不申、寛文四年ノ頃梅村保木村ト両村二分ケ、下ケ札も二札ニ仕申候
赤坂郡 福田村	古御絵図ニハ樺津村、承応二年二名替
黒沢ノ内先谷村	古御絵図ニハ柿谷村、柿谷と申村不承ノ由老民共申、違イ不知
是里ノ内鍛冶屋村	古御絵図ニ高見村、今ハ何見村高見村と申や不承候由老民申候、申違イ可有
石村ノ内平岩村	此村出来ノ年数不知
正満寺村	古御絵図ニ正満寺山村
惣分ノ内笹原村	此村古御絵図四枚一絵図ニ書落、此度書入
小原ノ内丸山村	此村一枚御絵図四枚一絵図ニ書落、此度書

大松山村	古御絵図ニ大松山寺村
土師方ノ内行常村	古御絵図ニ山ノ内村
石上村	古御絵図ニ西上村と有、先年ノ文字御替
石上ノ内日室村	出来ノ年数不知
西軽部ノ内高下原村	古御絵図ニ荒下村、荒下村と申儀不承候由老民申候、書違ニテ可有之
下仁保ノ内西仁保村	出来ノ年数不知
斎富村	古御絵図ニ池田村、万治二年二名替申候
牟佐ノ内大道谷村	此村何年已前出来申候哉不知
津高郡 江与味ノ内重定村	古御絵図ニハ江与味ノ内松尾村、作州ノ内近村ニ松尾村有之、寛文十二年二名替申候
江与味ノ内大山村	此村何年以前ニ出来候哉知レ不申候、古御絵図相調候已前ノ有来候、書落申候と存候
小森村ノ内大師村	古御絵図ニハ河内ノ内大師村
塩谷ノ内小原村	此村何年已前ノ有来候哉知リ不申候、古御絵図相調候已前ノ有来候、書落申候と存候
塩谷ノ内大目村	古御絵図ニハ神瀬村ノ内と有
久々ノ内品田村	此村古御絵図ニ品部村、延宝元年二名替ル
富沢村	古御絵図ニ小山村、口津高二小山村有、紛申ニ付、寛文四年二名替ル
市場ノ内光力村	古御絵図ニハ光月村、前ノ光月村と申儀覚不申候由老民申候、申違も可有之候
中田村	古御絵図ニ中田ノ内河本村此所ニ有之候、是へハ無御座候、何年以前亡所いたし候哉知レ不申候
紙工村	古御絵図ニハ紙工上村
紙工ノ内星原村	此村古御絵図ニ下加茂ノ内と有之
下加茂ノ内梅原村	此村何年以前ニ出来候哉知不申候、古御絵図調候以前ノ有来候、書落申と存候
下加茂ノ内ませら村	何年以前出来候哉知不申候
豊岡村	古御絵図ニハ河内村、口津高二河内村と有之、寛文五年二名替申候
上田村	古御絵図ニ上田村ノ内南上田村此所ニ有之、何年以前ニ亡所候哉知不申
野々口ノ内小坂村	何年以前ニ出来候哉不知、前ノ有来候由老民申候、古御絵図ニ書落申かと申候
西菅野ノ内尾越村	古御絵図ニ東菅野ノ内ニ有之候へ共、西菅野ノ内ニ極リ申候
横井上村ノ内八反村	古御絵図ニハ八反田村と有之、只今ハ八反村と申候
横井中村ノ内内田村	古御絵図ニハ横井上村ノ内内田村と有之候へ共、横井中村ノ内ニ極リ申候
横井上村ノ内小林村	出来ノ年数不知、大前ノ在之由老民申候、古御絵図ニ書落申候と存候
東原ノ内仲原村	古御絵図ニハ東原ノ内中村と有之、近所横井中村有之二付、延宝二年二名替申候
大岩ノ内小村	古御絵図ニ西原ノ内中村と有之、古来ノ大岩村ノ枝村ニて御座候、右之御絵図書違申候ト申候、近所ニ横井中村有之二付、寛文四年名替申候
富原村	古御絵図ニハ西原と有之、奥津高郡ニ同名有之二付、寛文四年二名替申候
東橋津村	古御絵図ニハ橋津村と有之
邑久郡 佐山ノ内富尾村	出来ノ年数不知
佐山ノ内土井村	出来ノ年数不知
福谷ノ内知尾村	寛文四年ニ出来
庄田村	古御絵図ニ朝日寺、寛文五年二名替申候
伊井ノ内新田村	明暦元年ニ出来
伊井ノ内柏山村	出来ノ年数不知
磯上ノ内柏山村	出来ノ年数不知



磯上ノ内河下村	出来ノ年数不知
福里村	古御絵図ニ福里新田
福里ノ内長崎村	延宝四年ニ出来
服部ノ内花光寺村	出来ノ年数不知
箕輪村	古御絵図ニ笠加村、明暦元年二名替申候、本村新村ニヶ所二分ヶ申候
南谷村	古御地図ニ南谷寺村
横尾村	古御絵図ニ横尾山村
山田庄ノ内原村	出来ノ年数不知
壬徳村	古御地図ニ郷村、明暦元年二名替申候
上寺村	古御絵図ニ上寺山村
後着村	古ニ笠加新田、只今後着村と申候、明暦元年二名替
福岡ノ内車村	出来ノ年数不知
太山村	古御絵図ニ太山寺村
浜ノ内久富村	出来ノ年数不知
邑久郷ノ内吉塔村	出来ノ年数不知
千手村	古御絵図ニ八千手山村
藤井ノ内丸山村	出来ノ年数不知
正儀村	古御絵図ニ片岡新田村、只今ハ正儀村、寛文五年名替申候
牛窓ノ内中浦村	古御絵図ニ吉田村
牛窓ノ内新町村	慶安三年ニ出来
牛窓ノ内大浦村	慶安四年ニ出来
上東郡 金岡ノ内新田村	寛文五年ニ出来
富崎村	□□□□
才崎ノ内小山村	何年以前ニ出来候哉不知
竹原ノ内辻村	□□□□
竹原ノ内門前村	古御絵図ニ竹原ノ内馬路山村此所ニ有之候、古ノ□□□
沼新田ノ内榑部村	此村古御絵図ニ榑部村ト有之候
西祖村	古御絵図ニ西祖寺村
	此所ニ西祖ノ枝村大前有之由ニ候へとも、其以後西祖ノ内新町村ヘ一所ニつほミ申候
榑原村	古御絵図ニ八角原村ト書付有之候、加様ニ書候へ共なら原と戻申候由
堀内村	古御絵図ニ東山寺村此所ニ有之候、古ノ寺ニて村ニ無之候、古御絵図ニ在之ニ付、其所ニ如此ニ候
宋甘ノ内矢津村	明暦三年ニ出来
上道郡 祇園ノ内長森村	古御絵図調候前ノ在之候、書落申と存候、老民とも覚居申候
土田ノ内新土田村	古御絵図ニ新屋敷村、何年前ニ名替り候哉不知
清水ノ内小淵村	古御絵図調候前ノ有之候、書落申と存候、老民共も覚居申候
赤田ノ内東赤田村	古御絵図調候前ノ在之候、書落申と存候、老民共も覚居申候
国富ノ内森下村	此村大前ハ国富村と一帳ニベリ候へとも、寛永拾六年ニ帳ヲ□□□申候
長利ノ内新村	承応三年ニ出来
丸山ノ内福谷村	正保四年ニ出来
丸山ノ内福泊村	正保三年ニ出来
松崎新田村	寛文三年ニ出来

山崎新田村	万治二年ニ出来
倉田新田村	延宝七年ニ出来
倉富新田村	延宝七年ニ出来
倉益新田村	延宝七年ニ出来
平井ノ内川崎新田村	明暦二年ニ出来
三野郡 中原新田村	御絵図ニ中嶋新田ト有之、万治元年ニ名替申、口上道郡ノ内中嶋村有之、紛申ニ付名替申候
三野ノ内山根村	此村出来ノ年数不知
北方ノ内糸とう村	此村出来ノ年数不知
津嶋ノ内土生村	古御絵図ニ羽浮
津嶋ノ内新村	延宝五年出来
上伊福ノ内国定村	古御絵図ニハ定国村
別所ノ内津倉村	此村出来ノ年数不知
□□ノ内□□□村	此村出来ノ年数不知
西河原ノ内砂山村	寛文三年出来
下出石ノ内新村	万治三年ニ出来
大安寺ノ内道当村	此村出来ノ年数不知
野田村	古御絵図ニ間村、明暦三年ニ名替申候
内田村	古御絵図ハ内田町村
下中野ノ内新村	寛文二年ニ出来
当新安村	慶安四年ニ出来
福成新田	古御絵図ニ福井新田、福井ト申村ハ不承候由老民共申候、其□申違と存候
児嶋郡 小串ノ内向小串村	正保元年ニ出来
八軒屋新田村	承応三年ニ出来
鞭木村	古御絵図ニ鞭木新田
下津井ノ内大室村	此村明暦三年ニ出来申候
田ノ口ノ内峠村	此村出来ノ年数不知
田ノ口ノ内小田ノ口村	此村古来有之候、出来ノ年数不知
山村ノ内ゆ伽村	古御絵図ニゆげ寺村
玉村ノ内玉原村	□□□□
碁石村	御絵図ニ中ノ浦村ト御座候、古来碁石村、承応三年ノ頃迄民家寺も在之候、時ニ其以後中ノ浦村ヘ□□□家村断絶候ヘハ古碁石村と一所ヲ唱申候
池迫ノ内庄村	古御絵図ニ庄ノ内池迫村ト有

註) 文字のかすれ、折目などにより読めないか、表示不適の箇所は□□□□で示した。